

議案第79号

令和2年度宝塚市一般会計補正予算（第5号）について

資料1(42)(43) 消耗品及び消防活動用備品について

購入する消耗品及び消防活動用備品は、高温多湿期における職員の現場活動時の熱中症対策として、消耗品費で体温の上昇を抑制する冷却用ハーネス、備品購入費で冷却用ハーネスに附属させる保冷剤を凍らせる冷凍庫を購入します。

1 新型コロナウイルス感染症対応下での職員の現状について

近年、夏場の外気温は年々上昇傾向にあること、また、30度を超える高温多湿期間は、5月中旬から10月末頃まで長期に及んでいるため、職員の熱中症対策は必須となっています。これまでは、隊員の交代などの隊運用や暑さに体を慣らす訓練、また、水分補給等で対応してきました。

現場活動時の感染防止は感染防止衣（上衣）、マスク及び手袋を着用していますが、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）への対応では、救急隊だけでなく全隊員が感染防止衣（上衣・下衣）、マスク及び手袋を着用しなければならない状況です。また、感染者や感染を疑う傷病者を搬送した際には、感染防止衣を容易に脱げないことや水分補給を容易にできないこと、1日に複数件出動することから、暑熱への暴露は多くなり、熱中症による判断力の低下や、疲労蓄積による安全管理上の問題等、様々な影響が懸念されています。

2 必要となる経費

消耗品費 2,303,840円

冷却用ハーネス 10,120円×200着=2,024,000円

交換用保冷剤 1,320円×2セット×106名分=279,840円

備品購入費 207,020円

冷凍庫 9台 207,020円

*参考

冷却用ハーネス

Rバンテージ構造による

抜群のフィット感



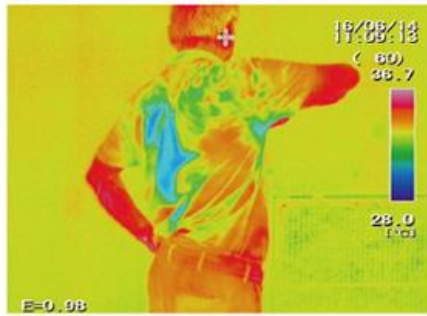
当社が独自に開発したRバンテージ構造が保冷剤を身体に密着させます。そのためアイスバック自体の重さを感じさせず、保冷剤がまるで身体に吸いつくようにフィットします。装着の違和感がないため活動障害を低減します。

保冷剤の位置が調整できる

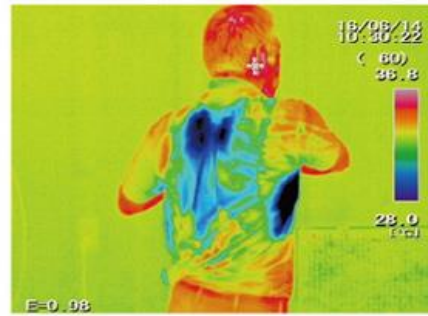
抜群の冷却効果



肩部に設けられた面ファスナーで脇下の保冷剤の位置を調整することにより、的確に脇下の動脈を冷やします。また脇下が固定されると背中部の保冷剤も固定され（Rバンテージ構造）背中も的確に冷やします。（保冷剤効力：約4～6時間 ※使用環境により異なります）



アイスハーネス® なし 運動 30 分後
(左図) 全体的にオレンジ～赤の高温となり**体温が上昇している**のがわかる。背中・腋の下には大量の汗をかき、その部分が青くなっている。脱水状態になり**熱中症にかかる危険性が高まる**。



アイスハーネス® あり 運動 30 分後
(右図) 保冷剤のある3箇所は冷たい状態を維持している。全体的に緑～青色で、保冷剤の周辺は**熱を吸収し体温上昇を防いでいる**。体温調整ができているため**脱水症状になりにくい**といえる。

感染防止対策

平常時



ヘルメット・マスク・手袋・感染防止衣（上衣・リユースタイプ）

コロナ対応下での通常対応



ヘルメット・マスク・手袋・感染防止衣（上下衣・ディスポタイプ）

コロナ感染患者対応



全身感染防止衣

写真は全身感染防止衣ですが「ヘルメット・手袋・全身感染防止衣・N95マスク・ゴーグル」で対応しています。

* 119番受信時に心肺停止を疑う場合や救助事案では、警防隊及び救助隊も同時に出動するため、救急隊と同様の感染防止を行います。